

のびっこ

令和4年9月発行

恵那市生涯学習課 太田
☎0573-26-2111(内線474)

このおたよりでは、子育て情報や、子育てについて考えるキッカケ・悩みを掲載していきます。

「歩くために、歩く」



大人が「歩く」のは、「移動」のため。

子どもが「歩く」のは、「歩くことを楽しむ」ため。

1～3歳の子どもに大人ができる最大の援助は、『子どものペースで、心ゆくまで歩くことに付き合う』ことだそうです。子どもの歩くブームの時期に、少し時間を作って、覚悟を決めて付き合ってみませんか？
ひとりで歩けた！ひとりでしゃがむことができた！ひとりで物をつまむことができた！その繰り返しから「自分はひとりでできる！」と自己肯定感も高まっていきます。

小学生になり、授業中、座ってられない子が増えているそうです。原因のひとつとして、体幹が育っていないことが挙げられます。歩くことで、①体幹が鍛えられる ②手が自由に使え、脳が活性化する などが期待できます。

おさんぽのススメ

五感をフル活用して

大人が実況中継しながら外を歩いていると、子どもの語彙も増えていきます。

「風が吹いてきたね」と風を感じる、「この葉っぱ、チクチクするよ」と触ってみる、「カラスがカーカー鳴いてるよ」と耳を傾ける。

季刊誌『ママ・ここと』がダウンロードできるよう配布している【ふいーるどびんご】もおすすめ。五感を意識する言葉かけの参考にもなります。



ちょっとトーク

親の個性、子どもの個性、家庭環境などがみんな違うように、価値観も子育ての【正解】もひとつではありません。だから【間違い】もありません。考え方は人それぞれ。

今年の夏は梅雨時期から雨が多いですが、みなさんどうやって乗り切っていますか？

雨の日
どうしてる？

近くの人と
話してみよう！

最後まで聞く 相づちを打つ
否定しない
自分の常識を押し付けない



活動紹介

中野方「子どもの事故の話」

各地域の乳幼児学級では、毎年【防災】と【乳幼児期の事故】の話をしています。中野方では、救急救命士さんのお話の前に、電気ポットとポリ袋を使って調理するパッククッキングでカレーとご飯を仕込み、帰りに持ち帰って試食しました。電気ポットのない家庭が多い、という気付きも。

救急士さんからは、市内で起こった事故のお話を聞き、実際に2歳児が誤飲し、気道に詰まらせた物を見せてもらいました。また、「119番通報をしてみましょう！」と、スマホから訓練通報。消防本部の指令室につながり、「子どもの意識がありません」と伝え、救急車の要請と心肺蘇生の指示を受けました。「事故や病気で心配だったら通報して大丈夫ですよ」と救命士さんが話されました。



子連れ防災

できることから、ちょっとずつ！



防災の考え方は、家庭によってそれぞれです。

家族構成やペットの有無で備蓄量も異なります。

家族みんなが写っている写真や年賀状をカバンに入れておくと、災害時に家族と会えない時の心の安定剤になるし、家族を探さなくてはならない時に見せることもできます。

土砂災害や浸水が心配な家庭は、2階に写真を保管するのもおすすめです。

今月のプチ防災

家族写真を
持ち歩こう



恵那の台所ばなし

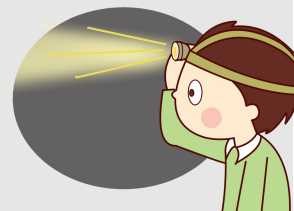
お月さまがきれいに見える季節を

迎えています。お月見とは「十五夜」のことを指し、今年9月10日です。「中秋の名月」「芋名月」とも呼ばれ、秋の実りに感謝してお供え物をし、お月見する日です。この日ばかりは他所の家のお供え物を食べても許されるという風習の残る地区があります。上矢作町では『お月見どろぼう』と言われ、夜に子どもたちが各家のお供え物をこっそりもらって歩きます。その家の人たちも、子どもたちの好きなお菓子を屋外に用意して、数が足りないことのないよう、そっと見守っているそうです。



つぶやき

『のびっこ』7月号のプチ防災コーナーで「ヘッドライトをつけてみよう！」と書いたところ、「うちも寝る前に絵本読むときに使ってます！絵本を照らすと眩しいから、ちょっとずらして壁を照らすといいよ！」とのコメントをいただきました。わが家は、イヤイヤ期の娘が寝た時にこっそり爪を切るため、ヘッドライトが活躍しています。



「のびっこ」をご覧いただきありがとうございます。
ご意見・ご感想・ご要望などをいただくと嬉しいです。右の二次元バーコードから入力いただけます。

